

提案趣旨説明書

<作品タイトル>

ボクらの美河

<提案の趣旨>

かつて多くの家庭や農地にきれいな水をもたらした安城市の原動力となっていた明治用水。しかしながら時が進むにつれて技術が進化する一方で、人間は自分たちのことばかりを考えて他の動植物や排気・フロンといった地球環境のことを無視して人中心のまちをつくってきた時期があった。戦後から20世紀末までの間地球に大きく負担をかけてきた影響は大きく、21世紀以降になってから世界的に地球環境について考え始めたが、渋谷にあった宇田川のように暗渠した後下水道になっていたりすでに後の祭りとなっている問題も数多く存在する。明治用水もその影響を受けて駅前的一部分が暗渠され、景観として駅前のところだけ切れていることには違和感を感じる。

この場合は幸い下水道とはならなかったため、まだ救うことのできる命であるからこそ当時に比べてライフラインが整っていることもあり三河の河川として蘇らせ、以前には無かった植生や活気を創出してほしいということが今回の趣旨である。

<川の発掘>

今現在も用水自体は地下で流れているので、ふたとなっている部分を採掘して周りの土手も整備して、それによってどかされた土でおもちゃや食器をワークショップ形式にしてつくる。

<心地よい河川空間>

心地よく自然豊かな河川環境とするために街路樹愛護会の協力の下河川内および土手空間のレイアウトを推敲し、まち一体として仕上げていく。

<持続可能な環境教育>

学校の必修教育としてワクワクネイチャースクールを開校して、魚つかみ体験や野菜の生育から収穫までの体験、ホテルの住処をつくる計画などの自然体験を行って、小さい頃から自然に触れ合ってもらおう。

<つかう.meet>

大人のワクワクネイチャースクールなどの体験型イベントをカンドタカメ様や安城市愛護会の協力の下で行っていき、学校でのものよりも値段はするものより深層をつく形のものとなる。